

資料2-3

平成25年9月13日

職業安定分科会雇用保険部会
(第91回)配布資料(抄)

※ 本資料の1～3ページは、
資料2-2と重複する資料で
あるため省略。

求職者支援制度関係資料

受講者について①

- 受講者について①～⑨は、第90回雇用保険部会（平成25年7月30日）でお示した、独立行政法人労働政策研究・研修機構（JILPT）における「求職者支援制度の効果分析及び効果的な就職支援のあり方に関する研究」の訓練開始前アンケートの結果を使用。

回答状況

平成24年9月開講コースの 受講者数	訓練開始前アンケートの 有効回答者数	回収率
7,275人	6,347人	87.3%

- ※ 受講者について①～⑤については、男女、年齢のいずれかについて無回答の者や生計の状況についての回答が「その他」又は無回答の者を除く5,630人分を集計した。
 ※ 受講者について⑥～⑨については、受講予定の職業訓練の分野についての回答が「わからない」又は無回答の者を除く4,946人分を集計した。

- 男性で生計の主な担い手ではない者を見ると、20代以下の割合が高く、30代をあわせると7割を超えている。

<生計の現状・年齢別>

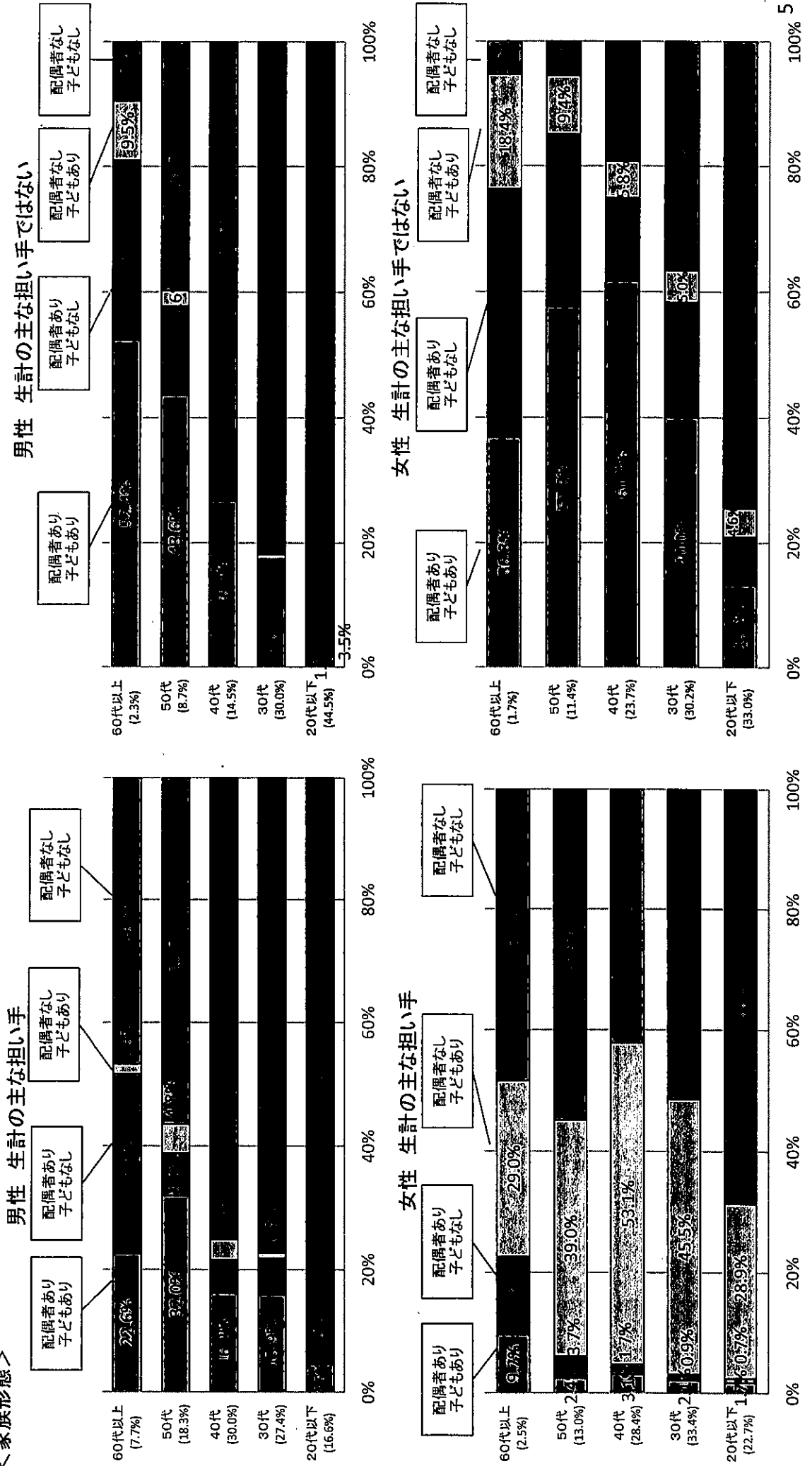
	生計の担い手	割合
男性	主な担い手である	47.2%
	主な担い手ではない	52.8%
女性	主な担い手である	35.9%
	主な担い手ではない	64.1%

	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
男性	16.6%	27.4%	30.0%	18.3%	7.7%
女性	44.5%	30.0%	14.5%	8.7%	2.3%
合計	22.7%	33.4%	28.4%	13.0%	2.5%
無回答	33.0%	30.2%	23.7%	11.4%	1.7%

受講者について②

○男性で生計の主な担い手である者を見ると、「配偶者なし、子どもなし」の割合が高くなってきている。
女性で生計の主な担い手である者を見ると、他と比べて「配偶者なし、子どもあり」の割合が高い。

<家族形態>

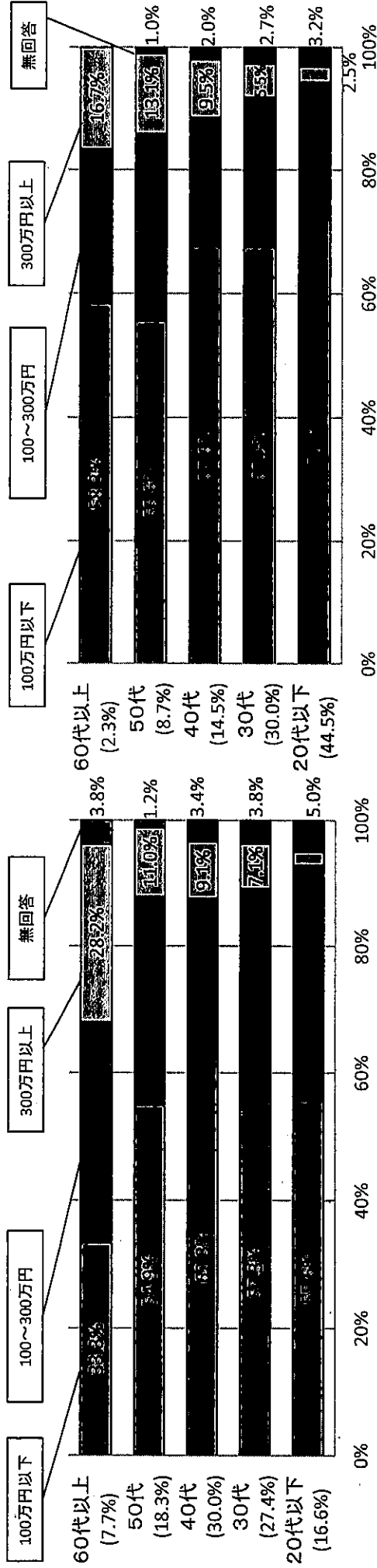


受講者について③

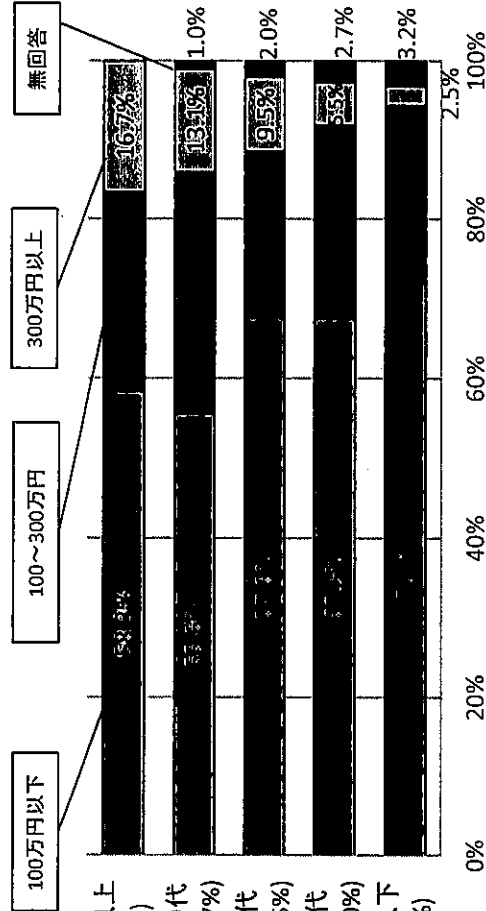
○本人収入については、いずれも「100万円以下」の割合が大きいが、男女ともに「生計の主な担い手」の方が、「100～300万円」、「300万円以上」の割合が高くなってきている。

<本人収入>

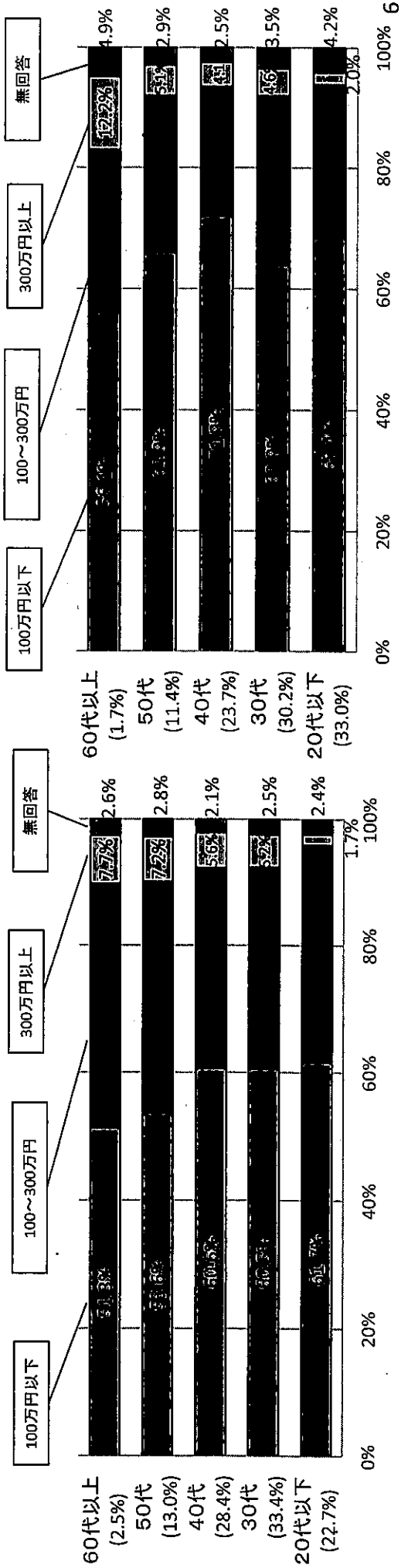
男性 生計の主な担い手



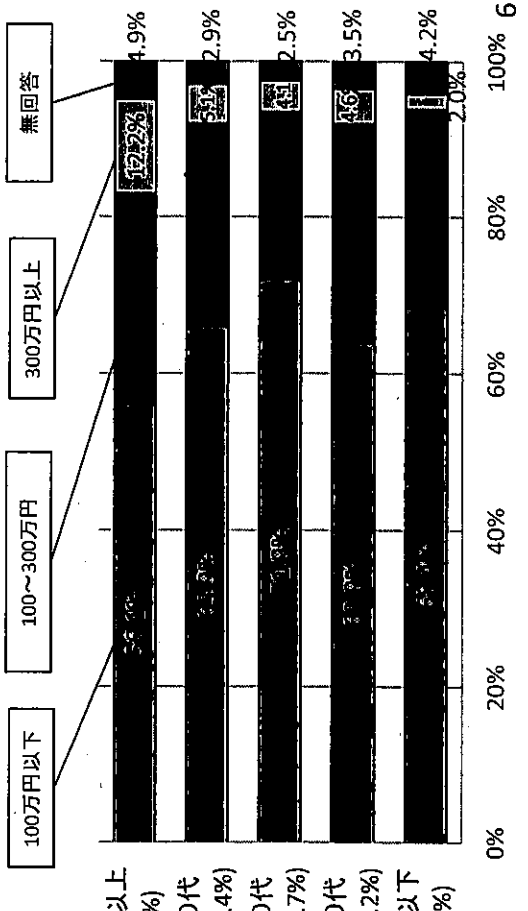
男性 生計の主な担い手ではない



女性 生計の主な担い手



女性 生計の主な担い手ではない

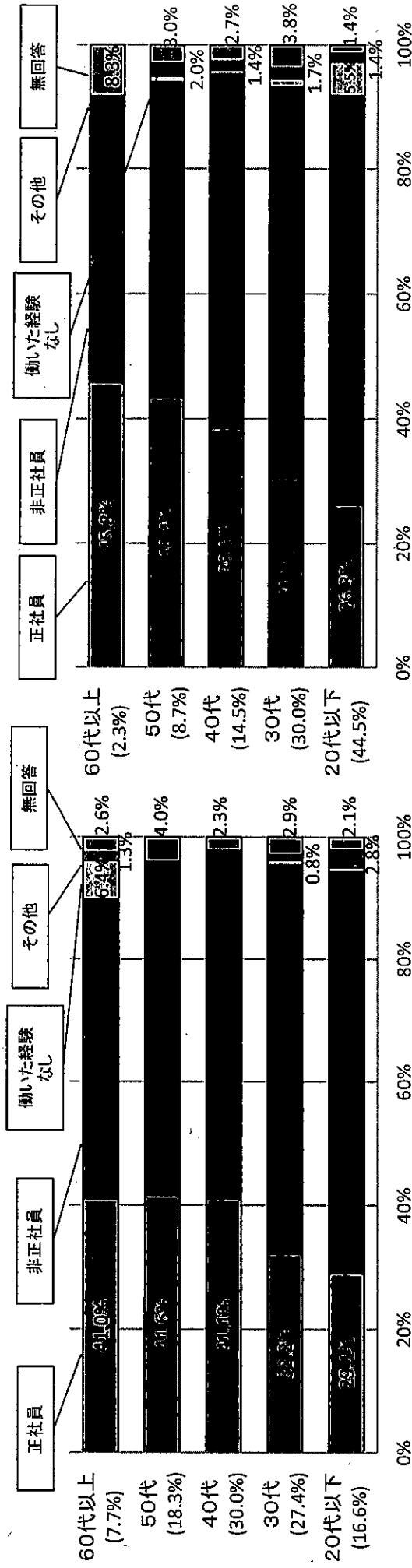


受講者について④

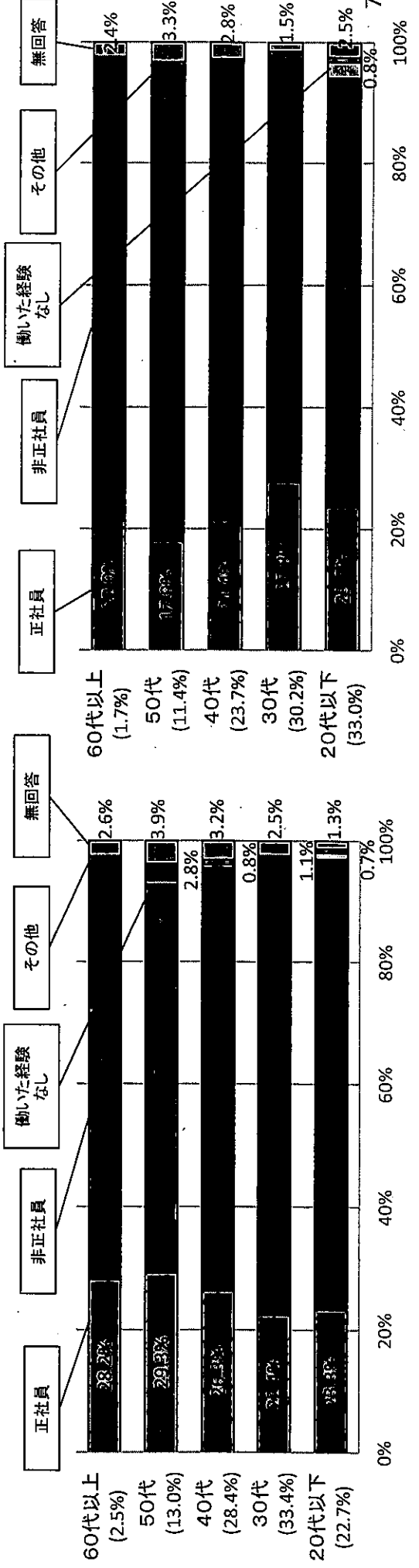
○直近の働き方については、「男性・生計の主な担い手ではない・60代以上」以外は、非正社員と回答した者の割合が高い。

＜直近の働き方＞

男性 生計の主な担い手



女性 生計の主な担い手

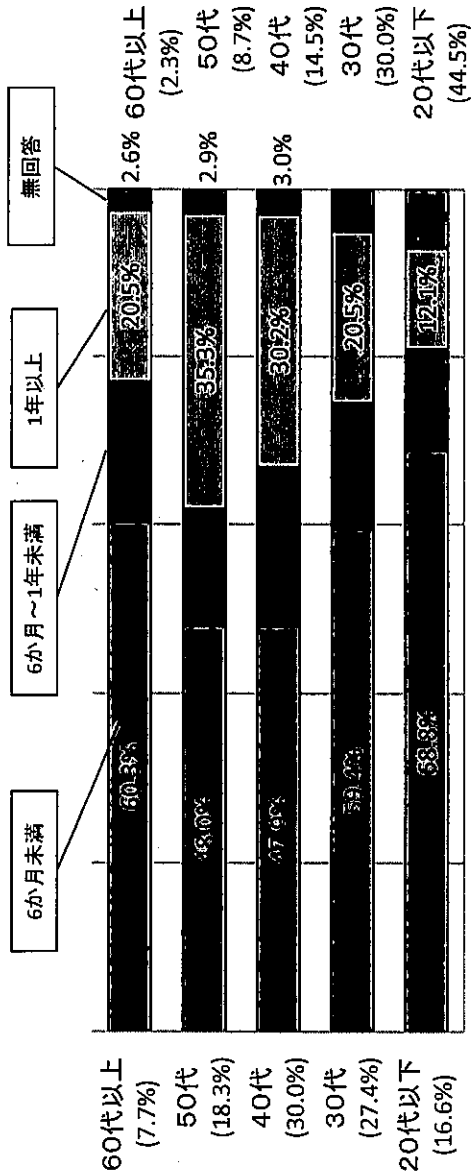


受講者について⑤

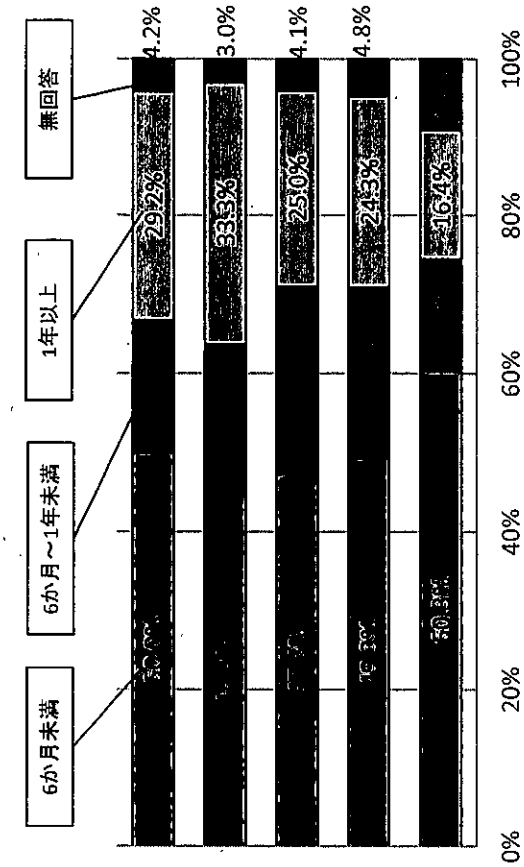
○求職期間については、いずれも「6か月未満」の割合が最も高く、50代で高くなっている。

<求職期間>

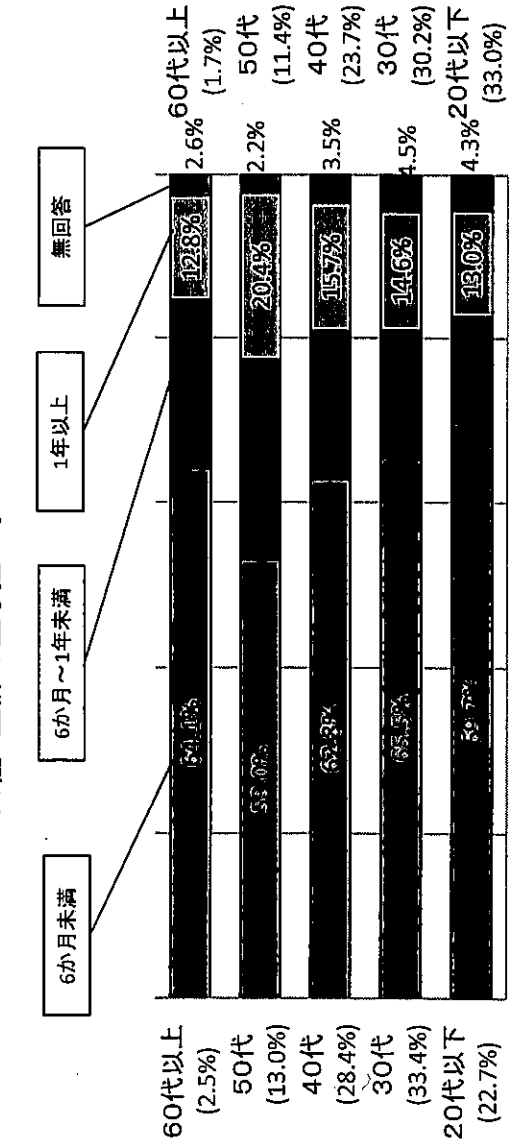
男性 生計の主な担い手



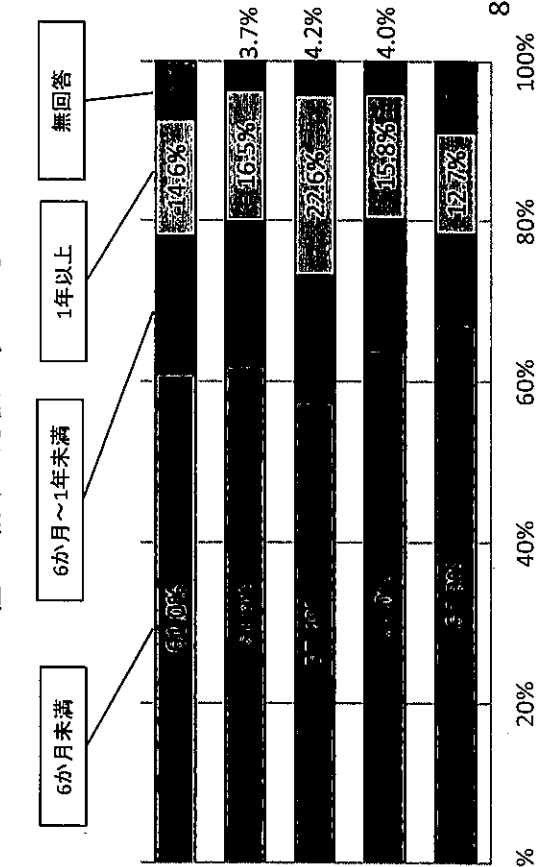
男性 生計の主な担い手ではない



女性 生計の主な担い手



女性 生計の主な担い手ではない



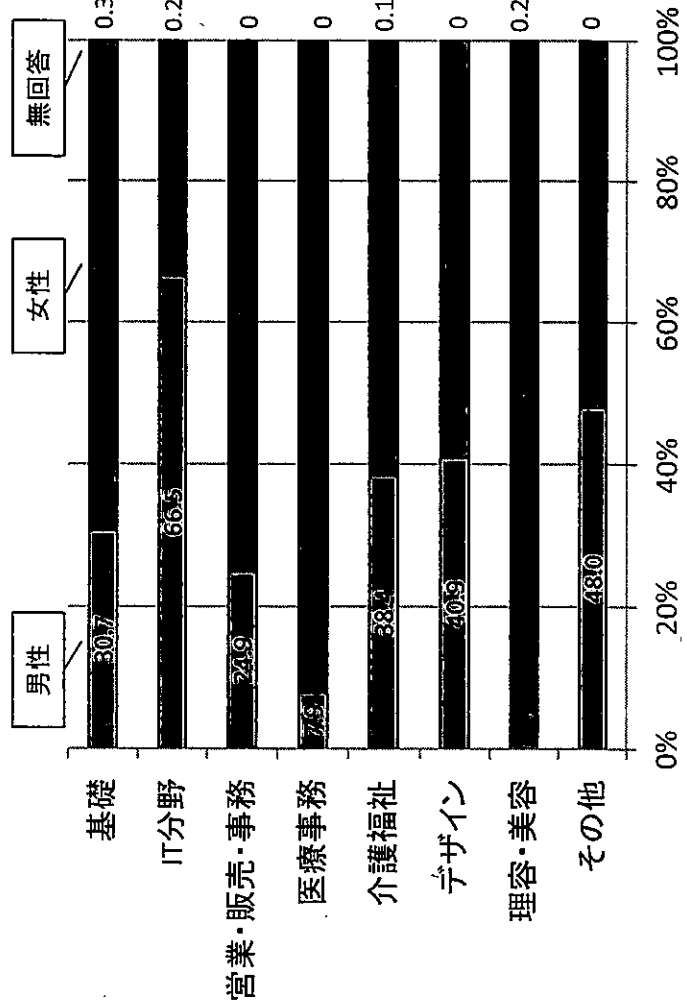
受講者について⑥

- 男女別では、医療事務と理容・美容の分野で圧倒的に女性の割合が高い。
- 年齢別では、IT、医療事務、デザイン、理容・美容の分野で20代、30代の占める割合が高い。

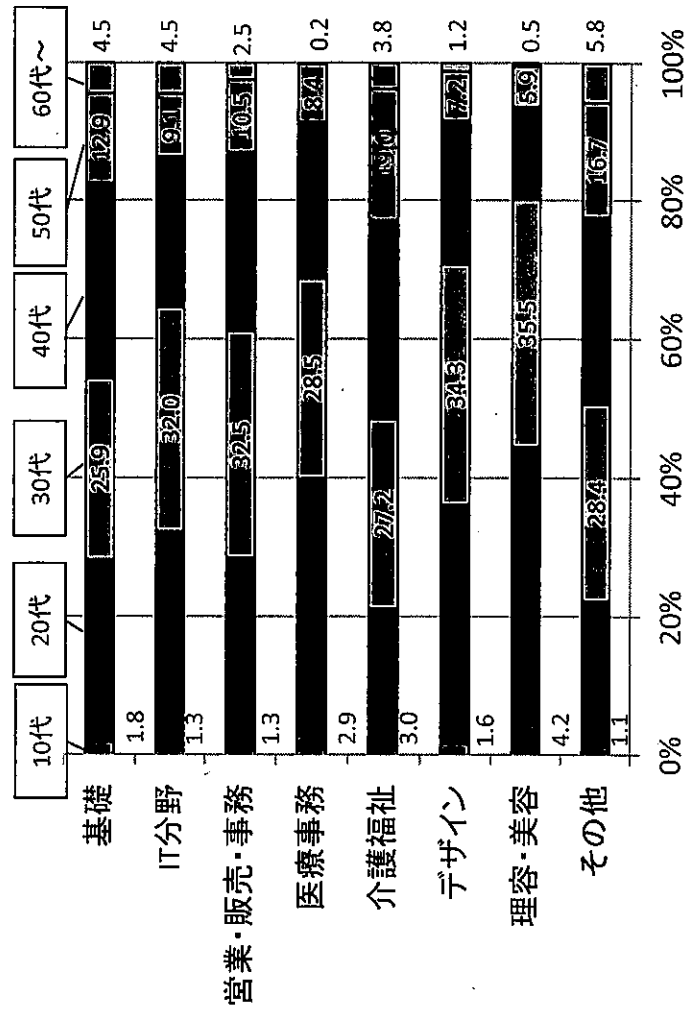
回答者数・割合

基礎	IT	営業・販売・事務	医療事務	介護福祉	デザイン	理容・美容	その他
870 (17.6%)	462 (9.3%)	708 (14.3%)	522 (10.6%)	1197 (24.2%)	487 (9.8%)	425 (8.6%)	275 (5.6%)

男女別



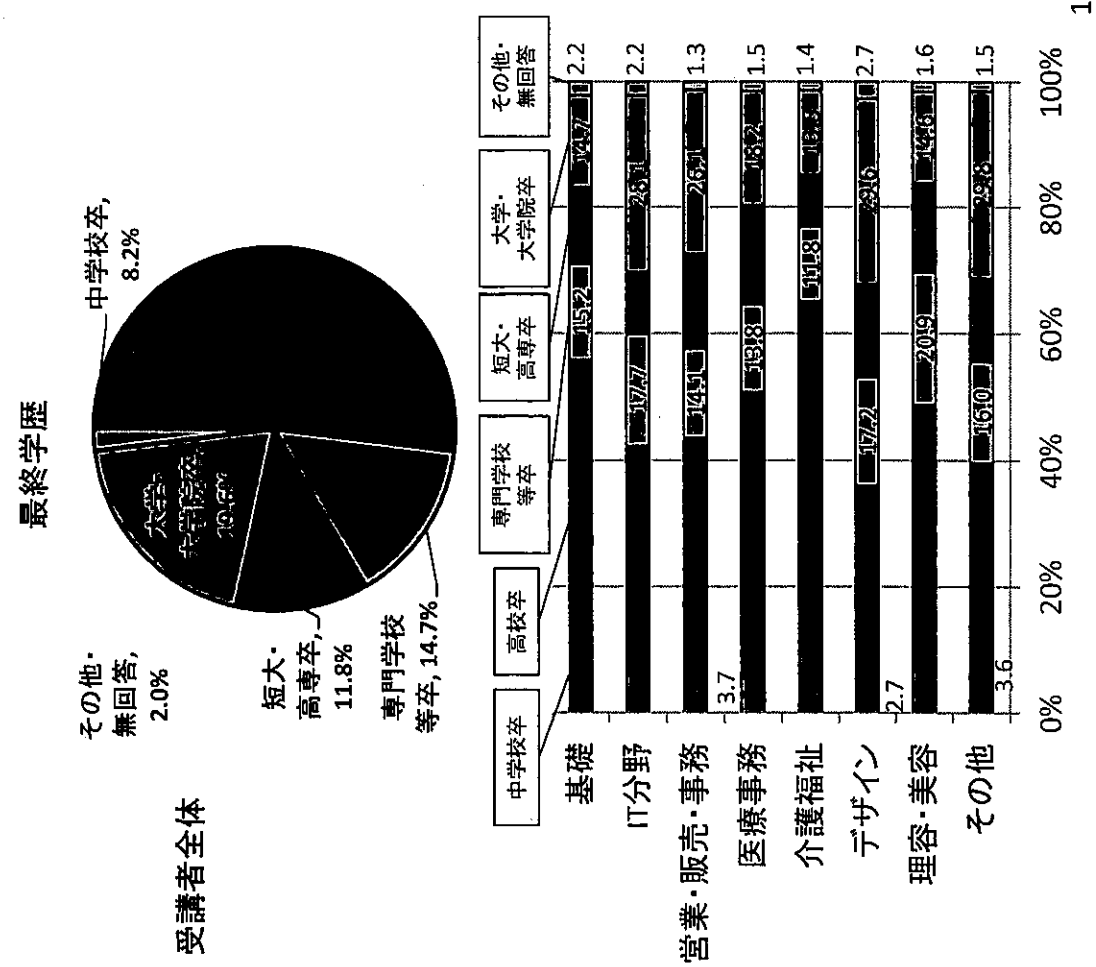
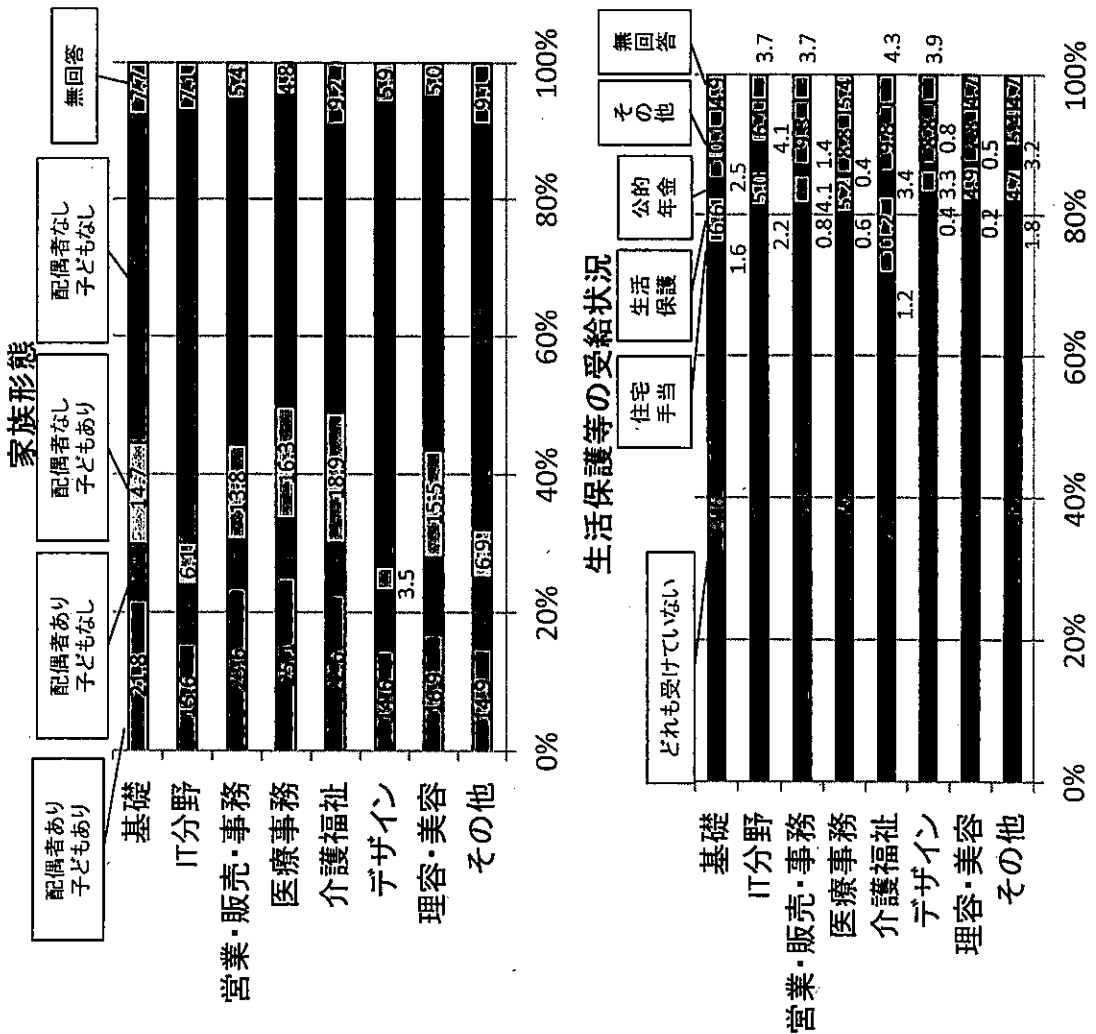
年齢別



※ 「その他」には、建設、電気、機械、調理、警備・保安、農業、旅行・観光などが含まれている。

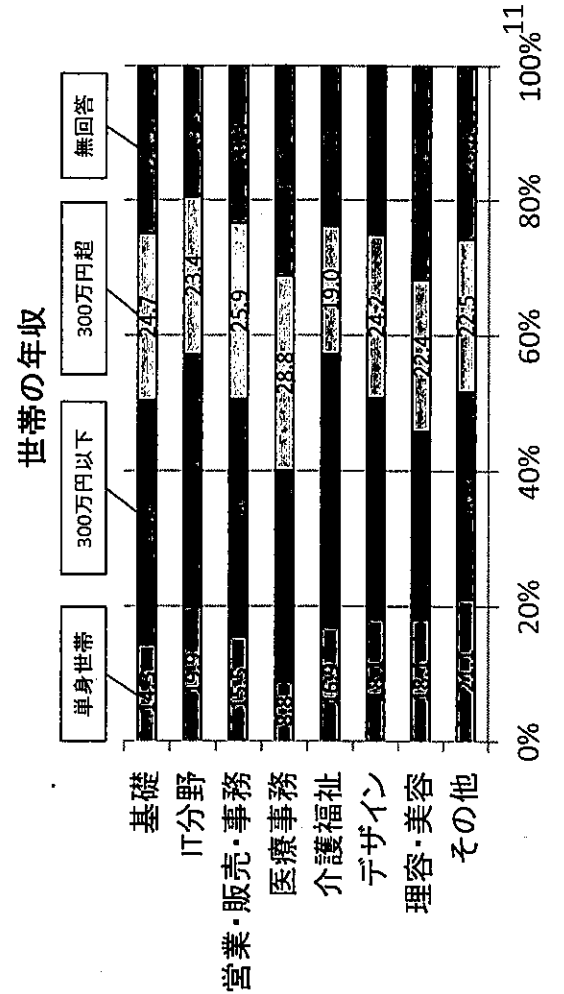
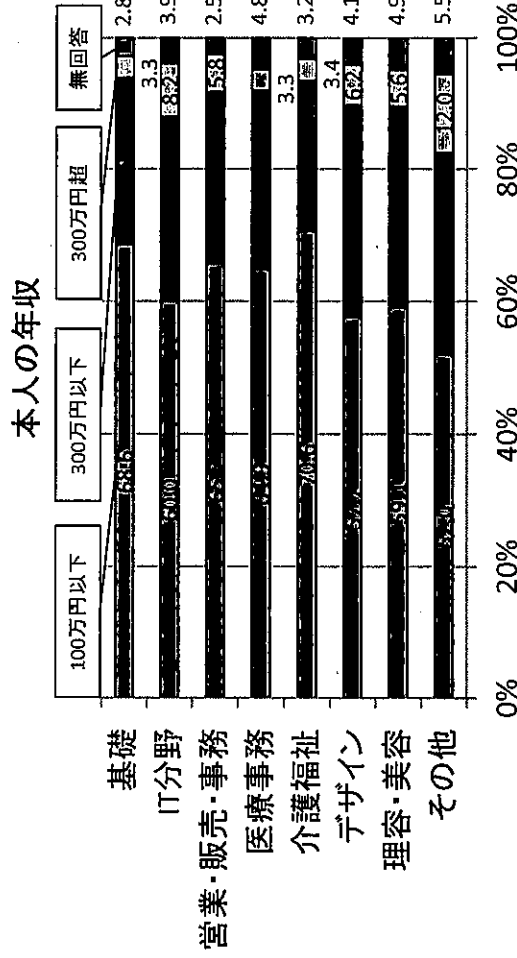
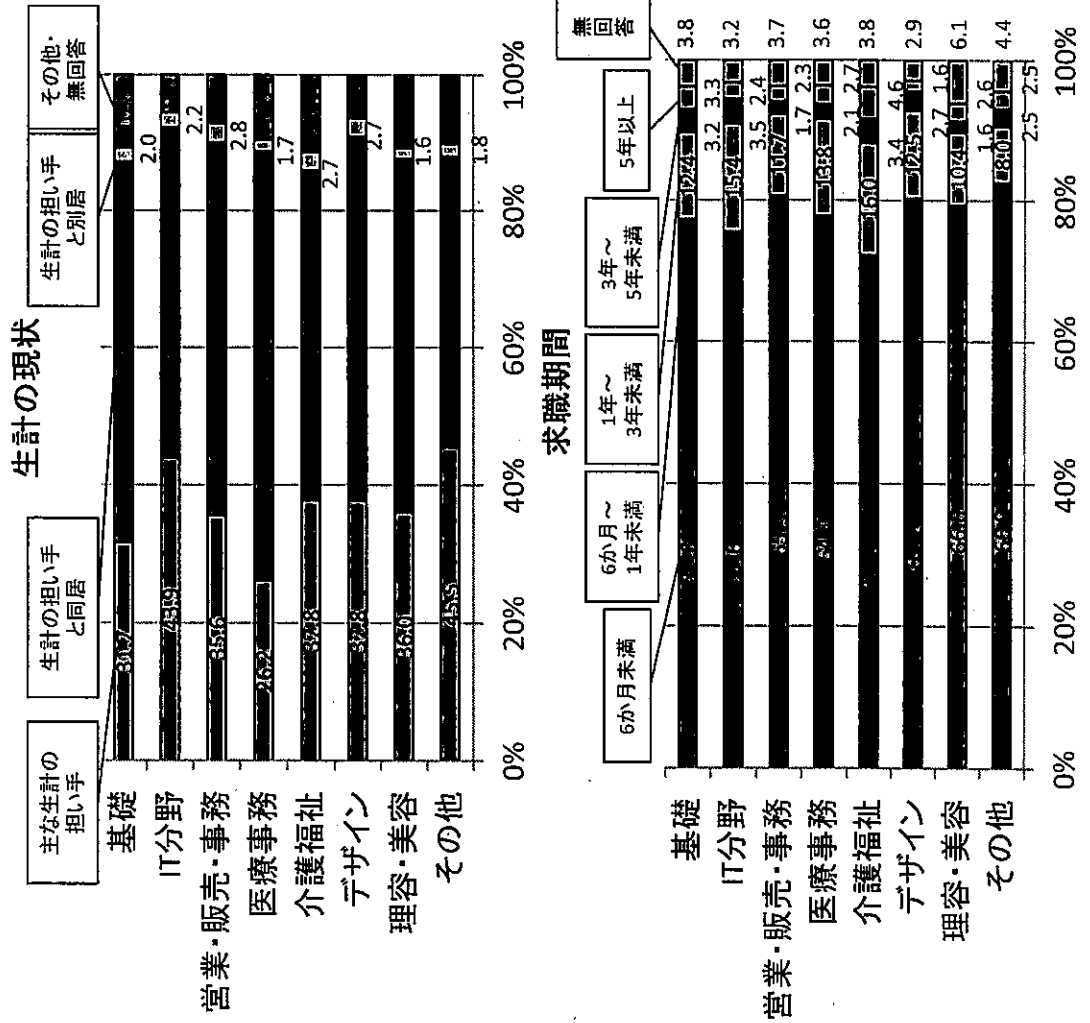
受講者について⑦

○家族形態については、IT分野とデザインで「配偶者なし、子どもなし」の割合が高い。また、「配偶者なし、子どもあり」については、医療事務、介護福祉、美容・デザインの割合が比較的高くなっている。
 ○最終学歴は「高校卒」が多いが、IT分野やデザインでは大卒割合も高くなっている。
 ○生活保護の受給状況は介護福祉で高くなっている。



受講者について⑧

- 生計の主たる担い手となっている割合はIT分野とその他で高くなっており、これらの世帯の年収を見ると他の分野と比べ、単身世帯が多くなっている。
- 本人の年収が100万円以下となっているのは介護福祉と基礎で高くなっている。世帯の収入が300万円以下となっているのは介護、IT、基礎で割合が高い。
- 求職期間は他の分野と比べ、介護福祉で比較的長期の者が多い。



受講者について⑨

- 最近の労働形態は非正社員が多いが、IT分野やその他では他の分野に比べ比較的正社員が高くなってきている。
- 正社員経験については、「なし」の割合は医療事務で高くなっている。5年以上の者はその他で最も高い。
- 非正社員経験が5年以上の者は基礎、デザイン、介護福祉の順に高い。

